

愛知県地震概況

令和4年（2022年）10月

この資料は速報であり、後日の調査で修正することがあります。

○概況

1. 愛知県内で震度1以上を観測した地震の状況

10月に愛知県内で震度1以上を観測した地震が1回発生しました。

2. 愛知県内や愛知県周辺で発生した主な地震

27日13時09分に三重県北部でM3.6の地震（最大震度2 深さ15km）が発生しました（下図の番号①）。

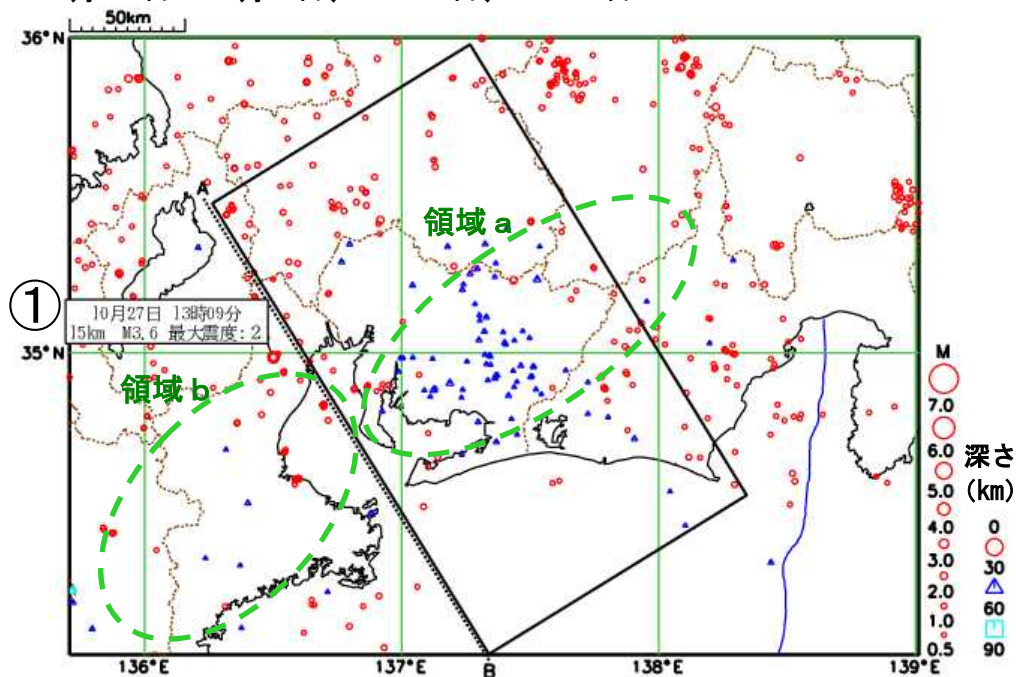
3. 深部低周波地震の活動状況

・東海（領域a）

16～24日、26～27日、30日

・紀伊半島北部（領域b）

9月30日～10月5日、9～10日、13～15日

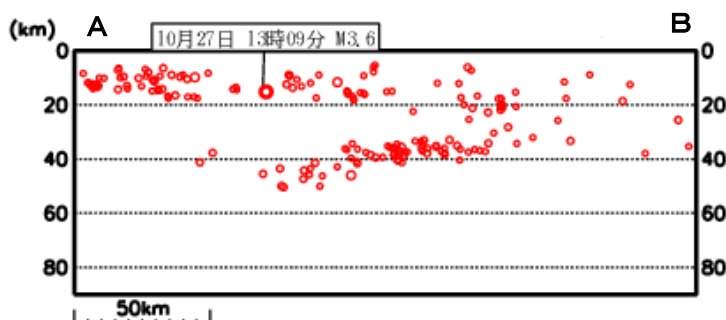


震央分布図（2022年10月1日～31日 深さ0～90km M≥0.5）

深部低周波地震（微動）

深部低周波地震の震央は震源決定精度が高くないため、地震が発生した領域を破線で表示しています。

（注）Mはマグニチュード（地震の規模）の略です。



左の断面図は、震央分布図中の斜めの四角形内の震源を、A-Bに沿って置いたスクリーンに投影する形でプロットしたものです。深さ25km程度までの浅い震源の分布域は、陸側プレートの地殻内の活動によるものです。

○県内で震度 1 以上を観測した地震

三重県北部（1 頁目震央分布図①）

10 月 27 日 13 時 09 分に三重県北部で発生した M3.6 の地震（深さ 15km）により三重県や滋賀県で震度 2 ～ 1 を観測しました。愛知県では名古屋市、一宮市、豊田市などで震度 1 を観測しました（図 1）。この地震は地殻内で発生しました。

1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（図 2 領域 a）は、M3.0 以上の地震活動があまりみられない領域です。

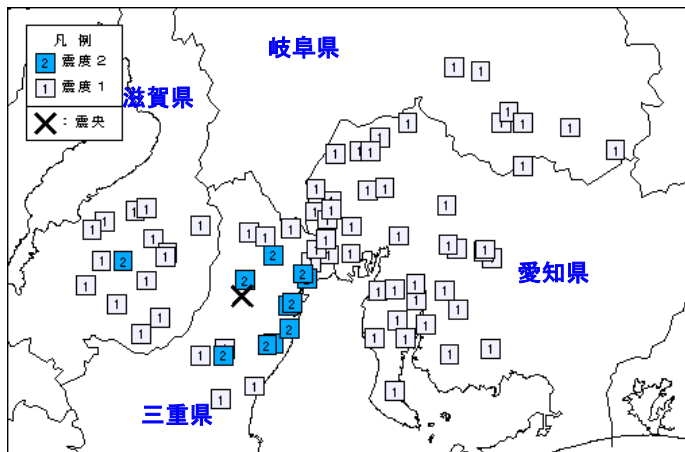


図 1 10 月 27 日 13 時 09 分 M3.6 震度分布
図（観測点別、×：震央）

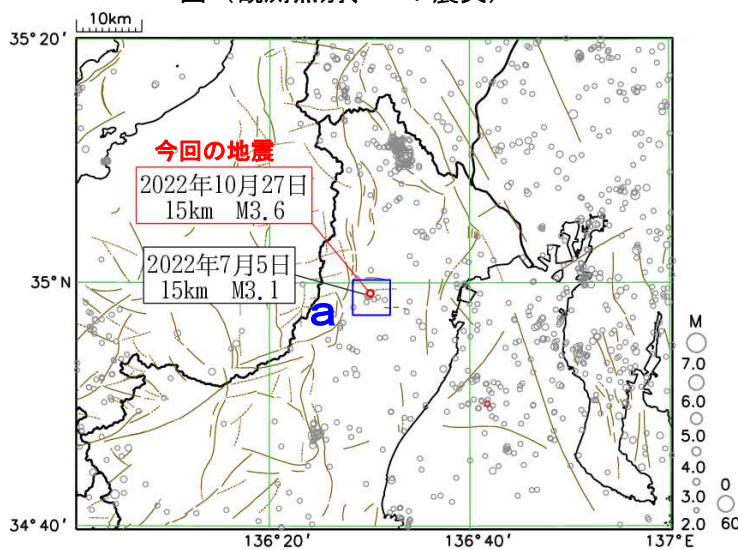


図 2 震央分布図
(1997 年 10 月 1 日～2022 年 10 月 31 日
深さ 0～60km M $\geq$ 2.0)

※2022 年 10 月の地震を赤で表示

茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による
活断層を示す

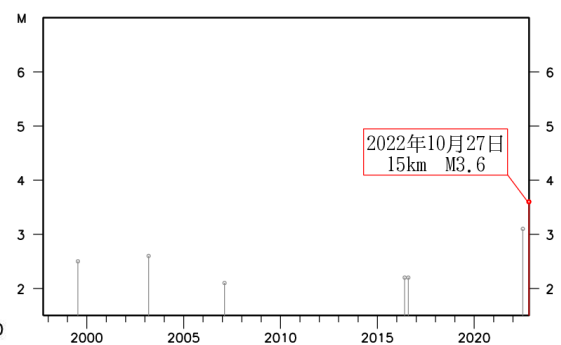


図 3 領域 a 内の地震活動経過図

○震度 1 以上を観測した地震の表（愛知県）

震源時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度					
2022 年 10 月 27 日 13 時 09 分	三重県北部	34° 59.1' N	136° 30.0' E	15km	M3.6
愛知県	震度 1：名古屋西区八筋町＊，名古屋瑞穂区塩入町＊，一宮市千秋，一宮市西五城＊，一宮市緑＊，半田市東洋町＊，愛知津島市埋田町＊，豊田市小坂本町，豊田市大洞町，豊田市小坂町＊，豊田市長興寺＊，安城市横山町＊，西尾市矢曾根町＊，犬山市五郎丸＊，常滑市飛香台，愛知江南市赤童子町＊，東海市加木屋町＊，大府市中央町＊，知多市緑町＊，知立市弘法＊，高浜市稗田町＊，東郷町春木＊，蟹江町蟹江本町＊，飛島村竹之郷＊，阿久比町卯坂＊，東浦町緒川＊，愛知美浜町河和＊，幸田町菱池＊，愛西市稲葉町，愛西市石田町＊，愛西市江西町＊，愛西市諏訪町＊，清須市清洲＊，弥富市前ヶ須町＊，愛知みよし市三好町＊，長久手市岩作城の内＊				

（注 ＊印の地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。）

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合(IRIS) の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

※地震関係の資料・情報は、名古屋地方気象台のホームページ『<https://www.data.jma.go.jp/nagoya/index.html>』からも随時ご覧になれますので、あわせてご利用下さい。

※2020 年 9 月以降に発生した地震を含む図については、2020 年 8 月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。

11月5日は「津波防災の日」

津波から命を守るためには **すぐ避難！**

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震に伴う大規模な津波災害を踏まえ、同年6月に「津波対策の推進に関する法律」が制定されました。この中で、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるようにするため、**毎年11月5日を「津波防災の日」と定めました。**

津波は、地震などによって生じた海底の隆起・沈降に伴い発生した海水の波が、四方八方へ広がり伝わっていく現象で、伝播速度は非常に速く、見てから逃げるのでは間に合いません。海岸や河口付近にいる場合に、強い揺れを感じたり、長くゆっくりした揺れを感じたりした場合、または、揺れを感じなくても津波警報を見聞きしたときは、以下のような行動をとることが必要です。



津波から逃げる時や避難した後について

- ・直ちに『**より高いところ**』を目指して津波から逃げましょう！
- ・逃げる時は周辺の人同士、『**津波がくるぞ**』と声を掛け合いながら避難しましょう。
- ・車を利用すると、渋滞などにより避難できない場合があります。原則、徒歩で避難しましょう。
- ・津波は繰り返し襲ってきます。避難後は、最新の情報を確認し、津波警報や自治体の避難指示が出ている間は避難を続けましょう。

津波の標識の例



つなみひなん
津波避難
津波が来襲する危険のある地域を表示



つなみひなんばしょ
津波避難場所
津波に対し安全な避難場所を表示



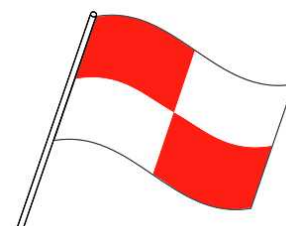
つなみひなん
津波避難ビル

津波フラッグについて

「津波フラッグ」は大津波警報、津波警報、津波注意報が発表されたことをお知らせする旗です。津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されますが、令和2年6月から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われています。「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障がいをお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難を開始してください。

津波フラッグの詳細については以下の気象庁HPをご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html



赤白の格子模様の「津波フラッグ」